

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800336		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム えださか		
所在地	〒 820-0203 福岡県嘉麻市平1492番地1	TEL	0948-42-3020
自己評価作成日	平成 23年5月24日	評価結果確定日	平成23年06月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな広い敷地に設立されたホームは緑が多く四季折々の季節を感じる事が出来る。隣接して系列会社の社宅があり、非常災害時などには協力が得られ心強い。代表者の思いである「入居者第一」を念頭に心にゆとりを持ち思いやりの精神を共有し、家庭的な環境で安心して生活が送れるように利用者の尊厳を守りながら支援しています。又、研修会、勉強会など、学ぶ機会を多く設け、職員の新たな資格取得にも力を入れている。地域の保育園児との交流、ボランティア、中学、高校生の体験学習の受け入れ、介護福祉士科の学生の実習先としての提供など地域と交流を行い信頼関係を築いています。医療面では、訪問看護24時間体制を取り入れ、重度化対応に関する(看取り)指針を実施することで、利用者、家族の方に「このホームで生活して良かった。」「長生きして良かった。」「このホームに入所させて間違いではなかった。」と心から思ってもらえるホームを職員一同目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年06月14日		

グループホーム えださかは、郊外の緑豊かな自然環境の中にあり、系列社宅が隣接し、非常時の協力体制は万全で、日常的な交流も活発である。代表者や管理者は、職員一人ひとりが、心のゆとりを持ちながら利用者として過ごすことで、充実した介護サービスが実践出来ることを重点課題とし、職員の質の向上を図るための取り組みを実施し、医療連携による訪問看護と合わせ、家族の評価は高いものがある。特に、これからのグループホームの在り方をテーマに、利用者の重度化や終末期に備え、家族や地域住民の協力体制が不可欠である中で、運営推進会議や地域、ホームの行事等を通じた活発な交流が実を結び始め、深い信頼関係が始まっている。また、地域密着型事業所として、介護相談事業等に取り組み、今後ますます期待が持てるグループホーム「えださか」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で、その人らしく、又、人生の先輩として尊敬の念を忘れず、心にゆとりを持ち、忙しい時も平常心で思いやりの精神で入居者様のお世話をさせて頂いています。	管理者と職員は、地域の中で利用者一人ひとりが、その人らしく安心して暮らすことを大切にする思いを込めた理念を作成し、「入居者第一」をモットーに、日々の介護の中で心にゆとりを持ち利用者への尊敬の念を忘れずに、理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園児との交流、中学生、高校生の体験学習の受け入れ、介護福祉科学生の実習受け入れ、ふれあいサロン、地域のボランティアの訪問など、積極的に交流を図っている。	隣接の中学校から聞こえる子供たちの賑やかな声は、ホームの暮らしに活気を与えている。また、中学生の体験学習や、介護福祉科の実習生の受け入れ、地域のボランティア、保育園児の訪問など、地域に開かれた交流の中で、利用者が生き生きと暮らせるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	系列の有料老人施設で開催される入居者対抗ボウリング大会、年1回の秋祭りに参加し、地域の方と親しくなり、いつでも立ち寄れる家庭的な雰囲気作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員の方や民生委員、婦人会、利用者の家族の方へ利用者の方々の現状報告、サービス、取り組み状況を報告し、そこでの意見を参考にし、サービスの向上を行っている。	会議は、市職員、地域の代表、家族等がメンバーとなって、2ヶ月毎に開催している。参加者から、情報、要望、質問などが出され、ホームからは現状、行事、課題などの報告があり、充実した会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	所長が市役所に行かれ情報交換を行い報告を受けている。又、市職員の方と気軽に相談できている。	運営推進会議に行政職員が参加し、事業所の状況を把握してもらい、連携体制が始まっている。また、所長が行政窓口に出向き、情報交換し、相談なども気軽に出来て、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し全職員が理解、自覚しています。	身体拘束廃止マニュアルを作成し、職員全員が内部研修を通じて知識、意識を共有し、拘束のないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	【入居者第一】を念頭に入れ虐待は絶対してはならないこと、肝に銘じて介護をしています。又、職員の状態、言葉使いに気をつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1名成年後見人を利用されている。権利擁護に関する資料も揃え、利用者や家族に必要な時、必要な情報が与えられるように努めています。	現在、成年後見制度を活用している利用者がある。管理者、職員は、権利擁護に関する制度について研修会を行い、理解し、利用者や家族に制度の必要性が生じたとき、窓口への橋渡しなどがスムーズに行えるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、運営規定、重要事項説明書に基づいて、ご家族様が十分に理解、納得いただけるまで説明しています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を行っており、家族の方々との意見交換を行っており、又、家族の意見を運営に反映させる為の働きかけをしている。利用料も振込みではなく家族に持参してもらい、意見を聴く機会をもうけている。玄関の目につきやすいところに意見書を設置しているが家族からの意見は今のところない。	ホームの行事や家族の来訪時に、意見や要望を聴き、職員会議で話し合い、速やかに改善策を講じ、運営に反映させている。また、意見箱を設置し、要望や苦情を聴き取るような取り組みをしている。	家族の心情や、立場、悩みなどを察し、家族同士で話し合う場を提供したり、ホームと家族が交流できる環境を作っていくことを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、意見や提案を聴き反映させている。又、2ヶ月に1回職員会議にて意見交換を行っている。	職員会議は2ヶ月毎に開催し、勉強会なども取り入れ、充実した意見交換の場となっている。出された意見は検討し、出来るだけホームの運営に反映できるよう努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事評価が行われている。又、職員の誕生日の月に商品券、忘年会の催しがある。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては性別、年齢などの制限は設けていない。定年も60歳と定めているが、嘱託として1年毎の更新をし65歳まで定年前と同じ条件で働くことが出来るなど、65歳以後は本人の働く意欲、元気があればいつまでも働くことが出来など配慮された職場である。	職員採用は、年齢、性別の制限はなく、人間性や、本人のやる気を重視している。ロッカーや休憩室を整備し、生き生きと働ける職場環境を確立している。また、職員の研修参加を奨励し、介護技術の向上を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加し、参加した職員が伝達講習をして知識の共有を図っている。理念に「尊厳ある生活」をあげ、職員は人生の先輩である利用者に敬意を持った態度で接している。利用者の自己決定を大切にゆとりを持って対応している。	職員は、利用者一人ひとりを尊重するホーム理念を理解し、実践することで、日常的に人権教育・啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を立て、社会福祉協議会主催の介護講座等に勤務扱いで参加できるようにしています。又職員の資格取得にも力をいれ、勤務のローテーションを配慮するなどの取り組みもしている。法人内研修、ホーム内の勉強会と学ぶ機会は多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、勉強会、意見交換などサービス向上に向けての取り組みをしている。職員交代にて参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者と家族に話をして好きなこと、困っていること、不安なこと等に耳を傾け、日々の生活の中で変化に気づき対応を行っています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に職員が入居希望者家族を訪問、又は家族の方が見学に来られた際、安心して入居できる様に家族の不安、ニーズに耳を傾けながら信頼関係作りを努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に今必要としていること、又、本人の出来ることを見極めて支援できるように努めます。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者とともに生活する中で、色々と職員が教わることも多く耳を傾けて聴くようなこともある。又、利用者の自立されている方は必要以上に手を出さず一人ひとりのペースを大切にしている。職員は休憩時間もDルームにて利用者と一緒に過ごしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月利用料を持ってこられた折、ホームでの生活状況、今後の支援に対しての要望を尋ねる。サービスに反映させる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でもが気楽に立ち寄れるような家庭的環境である為、利用者のお友達も良く尋ねて来られ、居室にて雑談等されている。又、買い物に職員と一緒に出かけたり、病院受診、ドライブにて風景を思い出していただく。	利用者の友人、知人、家族等の訪問が頻繁にあり、利用者は楽しい時間を過ごしている。また、家族と相談して利用者の馴染みの場所を訪問するなど、関係継続のための支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの場を多く持ち、入居者、職員一緒になって楽しく笑い、泣き行動することで支えあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も病院、或いは葬儀に出向き家族からの相談等についても快く応じるよう職員一同努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の言葉や表情から意向を汲み取るように努めている。又、利用者の希望、意向を聞き出来る限りの範囲で本人の希望、意向を叶えるように努めています。	永年勤続の職員が多く、利用者との馴染みの関係であることから、職員は利用者の思いや意向を汲み取り、出来るだけ思いに副う支援をしている。意向表出の困難な利用者に対しては、家族に相談し、ベテラン職員を中心に、利用者が喜ぶ支援をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	人それぞれに歩んできた人生が異なるのですから、日常的な会話の中から昔の話がよみがえり少しずつその人の一番記憶に残る話をされる時は目が輝きうれしそうに話されるため、暫く話を傾聴しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝はバイタルチェックを行い、健康管理を行っている。1日のおおまかな過ごし方は決まっているが、その人の、その日の体調、気分によってその人に合った支援を行っています。生活の中から、体調不調時の訴えが出来ない方など、様子観察をし早期発見、早期治療に向けて支援しています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム入居時には、アセスメントにて利用者の意思(本人さんの出来ること、何がしたいか?等)や状況を把握し、家族の意見や医療関係者の意見を参考に職員間で意見交換し、計画を作成しています。	職員は、利用者や家族の意向を尊重し、介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族や医師、関係者の意見・要望なども加え連携を図り、その都度計画を見直している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、変化を細かく介護記録に記入し、職員間での情報の共有をしている。その中で3ヶ月に一度、介護計画の評価を行い計画の見直しをしている。利用者に変化が見られたときには職員間で検討し見直しをしている。家族にもその都度変更を伝えている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人内の利用者とのボーリング大会や秋祭りへの参加。理学療法士によるリハビリ、かかりつけ医への受診支援、週2回提携医による往診がある。全職員が救急時の対応の研修を受け、AEDが使用できるなど、健康で安心して過ごせる環境を整えています。又、24時間訪問看護の受け入れをしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	紙粘土教室など地域ボランティアを受け入れており、お正月には近隣の方々による門松作り、中学、高校、専門学校等から実習生の受け入れを行っています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意のうえで在宅支援診療を受け入れ、定期的に往診してもらっています。家族もかかりつけ医の受け入れにて、安心されています。	利用者や家族の希望を優先し、かかりつけ医、提携医を選択してもらい、家族と協力しながら受診の支援をしている。また、24時間訪問看護を取り入れ、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護24時間の受け入れをしています。訪問看護師の定期的(週一回)に受診される。その際個々の利用者の報告、連絡、相談等を行い早期発見、早期治療に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、頻りに病院に出向き担当医師や看護師と情報交換、相談に努めています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護24時間受け入れを行っており、家族には「重度化対応、看取りに関する指針」の説明を行っています。又、事業所でも看取りについての勉強会が行われます。「アップルハート飯塚訪問看護ステーション看護師」より	看取りの指針を作成し、利用者や家族に説明を行い、承認を得ている。重度化に伴い、関係者と段階的に話し合いを重ね、利用者が、いつまでも安心して暮らせるよう支援体制を整えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の撤在、ADEの設置、消防署の救命指導や応急手当のシュミレーション実施。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施(うち1回は消防署立会いのも実施)している。マニュアルを本に夜間を想定した訓練のシュミレーションも実施している。訓練にホームに隣接する系列会社の社宅の住民が参加することはないが、災害時協力が得られる体制が作られている。又、非常時に備え非常食、飲料水、毛布などの備蓄も整っている。	昼夜を想定した避難訓練を実施し、隣接の社宅の住人と災害時における協力体制もとれている。また、非常災害時に備えて、飲料水、非常食を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と会話する場合に大きい声、強い口調を避けるように心がけて接している。排泄の支援が必要な利用者には、失敗で傷つくことがないようにさり気無く時間ごとに誘導している。	優しい職員の温かな声かけや気配りで、利用者の表情は和やかで、ホームでの暮らしを楽しんでいるように見える。また、個人記録は、人目に触れない場所で保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物に行きたい利用者には、その日の体調を見て職員と一緒に出かけます。又、レクリエーションでは何がしたいか声掛けし、要望が出れば皆さんで行うようにしています。利用者より、時々息子さんに電話を掛けたいと言われるときは電話を掛けて息子さんと話をして頂くようにすると安心されて落ち着かれる。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかなスケジュールはあるが、利用者の希望やペースを大切に支援している。レクリエーションへの参加も本人の意思を尊重し無理強いはしていない。利用者の出来ること、支援が必要なことを見極め、必要以上に手を出さず見守りをしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に近隣の美容室の方で利用者と顔なじみの方多く雑談しながら、カットされている。又、自分の好きな髪型をリクエストされる方もおられる。髪染めを希望される方へは、職員が行っています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的なメニュー、季節の物を取り入れ献立の作成から食材の調達、調理をホームでしています。利用者と職員と一緒に食材購入、準備、食事、片付けを雑談を交えながらしています。又、利用者に何が食べたいか尋ねメニューに取り入れる工夫をしています。職員は常に目配り、気配り、必要な支援をさりげなくしています。	食事はすべて手作りとし、季節感や好みを取り入れてたメニューとなっている。また、調理上手の職員が作る料理は、味、盛り付け、量、季節感などに心を配っている。同じテーブルで利用者と職員が談笑しながら食べるご馳走は、利用者の健康を作る源である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者に応じた形態、量を提供しています。摂取量、水分量をチェックしバランスよく取れるようにしています。体調不調で食欲がない方には好きなものを食べやすく工夫する、補助食品等を提供しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、夕食後は毎日義歯洗浄液に浸しています。自分で出来ない方、不十分な方には声掛けや歯磨き介助をし、清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の自尊心を傷つけないような言葉遣いで一人ひとりの排泄表を確認しトイレの声掛け、誘導、介助を行っています。又、プライバシー保護にも配慮をしています。	職員は、利用者一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、職員のごまめな誘導や、優しい言葉かけで、排泄の自立に向けた支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いものを取り入れています。又、1日の水分量を記入し、水分確保に努めています。個々に応じたラジオ体操、散歩、廊下歩行等の運動を行っています。排泄表を確認し排便(-)が続く時は、主治医に相談し緩下剤使用しています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者より一応入浴の曜日は決めて欲しいとの希望であるので週3回の入浴日を決めている。時々順番も変わるが一人ひとりに合わせて入浴を楽しんでいただいている。温度調節、浴室の環境整備に配慮し安全、安心、安楽に入浴を提供しています。	入浴は、週3回であるが、利用者の希望を優先し、毎日入ることも出来る。また、入浴を拒否される利用者に対しては、利用者同士で声をかけてもらうなど、無理強いせず、タイミングを見ながら入浴を勧めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立の方は自由に余暇時間を過ごされている。介助が必要な方は本人の訴え時、声掛けにて休息されています。夜間時、安眠のために眠剤を服用し休まれる方もおります。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用される薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、薬の変更があったときは、介護日誌、申し送り、職員より伝達確認する。又、症状の経過観察も日々行っています。服薬は誤薬がないように、日にち、氏名を確認の上服用して頂きます。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、興味、希望を把握し無理のない範囲で、菜園での野菜作り、食事の準備など利用者と職員と一緒にしている。貼り絵、トランプ、俳句、習字、家族との外出などの他にボランティアによる紙粘土教室の開催、保育園児との交流、中学生、高校生の体験学習の受け入れなども、ホームでの生活に活気と潤いを与えることにつながっている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの公園への散歩、花見、同一法人の施設でのイベントへの参加などホームの外へ出る機会を多く設けている。通院支援の際は回り道をしてでも利用者の住み慣れた地域を通るなど配慮している。買い物の際は、利用者の状況に応じて支払いをしてもらったり、お金の自己管理を支援しています。自立されている方で数人は家族との外出、外泊も来ています。	玄関を一步出ると、鶯がさえずる緑の森と、広々とした森林があり、自然の中に佇むことで外気浴ができ、利用者の生き生きとした暮らしに繋がっている。また、利用者は、ホーム菜園での野菜作り、草取りなど戸外での活動を楽しんでる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理を出来る方は所持して頂き、買い物に出かけた時、買い物と一緒に出かけないときは欲しい物を買ってきてレシートにてお金を頂くようにしています。又、曾孫さんを連れて家族の方が面会に来られた時、財布からお金を出して曾孫さんに渡さしていました。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より電話を掛けたいのと言われれば、電話を掛けて話ができるように支援しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	Dルームテーブル、洗面所等、職員持参の季節の花、鉢植えを置き、壁には利用者の作品や行事の写真等を貼って季節感を感じて頂けるように努めています。玄関の周囲に季節の花を植えています。	寮を改築した2階建ての建物を、利用者と職員が家庭的な雰囲気になるよう、手作りの飾りつけや行事の写真を上手にレイアウトし、温かい共用空間を演出している。ホーム内の目につく所には、紫陽花の花が飾ってあった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は寂しくなればDルームにて、他の入居者や介護スタッフとおしゃべりをして過ごされています。寝る時や一人になりたい時は居室で過ごし、他の時間はDルームで皆と楽しく過ごされています。自分の部屋が有ることで、利用者の方々はメリハリのある生活を送ることが出来、家族の方も満足されています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で「自分の家」と感じ、くつろげるように今ままで使い慣れた馴染みの家具を置かれ、壁には家族の写真や手作りの作品を飾られ、本人さんの居心地よく生活できるように配慮しています。	利用者が、昔から使い慣れた馴染みのものや、家族の写真、自分の作品や手作りの置物などが飾られている。利用者が安心して居心地良く暮らせるよう工夫された居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方も自力にて移動しやすく、自分では大丈夫と思われる方も足の上の上がりが悪く躓きそうになりますので、居室内、風呂場、トイレはバリアフリーになっており、又、風呂場、トイレの場所が分かるように表示しています。		